

音楽ホール整備に伴う  
市内ホール施設の体系の整理

令和2年11月

仙 台 市

## 目 次

1	整理の背景・目的等	
	(1) 背景	1
	(2) 目的	1
	(3) 対象施設の範囲	1
2	ホール施設の位置づけと現状	
	(1) ホール施設の位置づけ	2
	①劇場、音楽堂等の活性化に関する法律	2
	②仙台市基本計画（中間案）	2
	(2) 市内ホール施設の現状	3
3	市内ホール施設の体系の整理	
	(1) 整理の考え方	4
	(2) これからのホールに求められる役割	4
	(3) 施設の性質に着目した分類	5
	①ホール施設の類型	5
	②施設の性質に着目した現状の分類	6
	(4) メインホールの性能に着目した分類	7
	①音響特性について	7
	②メインホールの性能に着目した現状の分類	7
	(5) 今後見込まれる市内ホール施設的环境変化	8
	①音楽ホールの整備	8
	②新県民会館の整備	8
	③老朽化施設の今後を見据えた整理の必要	8
	(6) 音楽ホールに係る需要想定調査	9
	①調査の前提条件	9
	②調査の考え方	9
	③調査方法	9
	④調査結果の概要	11
	(7) 今後のあり方	12
	①音楽ホール・青年文化センター	12
	②各区文化センター・広瀬文化センター・イズミティ21	13
	③市民会館	13
	④戦災復興記念館	13
	⑤仙台サンプラザ	14
	(8) ホール体系の将来像	15
4	まとめ	16

## 参考資料

### 対象施設の概要

トークネットホール仙台（市民会館）	18
戦災復興記念館	19
日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）	20
広瀬文化センター	21
宮城野区文化センター	22
仙台サンプラザ	23
若林区文化センター	24
太白区文化センター	25
仙台銀行ホールイズミティ21（仙台市泉文化創造センター）	26
東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）	27
東北大学百周年記念会館川内萩ホール	28
電力ホール	29

# 1 整理の背景・目的等

## (1) 背景

現在市内においては、本市の音楽ホールや新県民会館といった新たなホール施設の整備検討が進められている。一方で、既存のホール施設の中には老朽化が進んでいるものもあり、将来的なあり方を検討すべき時期にきている施設もある。

こうした状況の変化に、効果的・効率的に対応し、バランスの取れた市内ホール施設の実現していくためには、新たな施設の整備の方向性や、既存施設がこれまで担ってきた役割などを踏まえながら、市内ホール施設全体の関係性について整理を行い、各施設の担うべき役割をより明確にする必要がある。

## (2) 目的

文化振興の観点から、既存の市内ホール施設が持つ機能や役割等を、それぞれの位置づけや関係性の観点から改めて整理するとともに、老朽化が進み、建物の更新に課題のある施設がこれまで担ってきた役割等について、音楽ホール等を含めた市内ホール施設での代替の可能性について検討するなど、将来的な市内ホール施設のあり方について、その方向性を整理する。

## (3) 対象施設の範囲

仙台市、宮城県及び民間事業者が設置した、主として文化芸術活動に使用され、広く一般に貸し出されている固定座席を有するホール施設を範囲とする。

	対象施設名	メインホール（席数）
市有施設	・ 仙台市民会館	大ホール (1,265席)
	・ 戦災復興記念館	記念ホール (270席)
	・ 青年文化センター	コンサートホール (802席)
	・ 広瀬文化センター	ホール (605席)
	・ 宮城野区文化センター	コンサートホール (384席)
	・ 仙台サンプラザ	ホール (最大2,710席)
	・ 若林区文化センター	ホール (700席)
	・ 太白区文化センター	ホール (最大674席)
	・ 泉文化創造センター（イズミティ21）	大ホール (1,450席)
県有施設	・ 宮城県民会館	大ホール (1,590席)
民間施設	・ 東北大学萩ホール	ホール (1,235席)
	・ 電力ホール	ホール (1,000席)

※各ホール施設の概要については、P17からの参考資料のとおり

## 2 ホール施設の位置づけと現状

### (1) ホール施設の位置づけ

#### ①劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

平成24年6月に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」(以下、「劇場法」という。)が制定され、これまで根拠法のなかったホール施設に法的な位置づけが与えられるとともに、従来の考え方とは異なるホール施設の新しい役割や活動の方向性などが示されている。

#### 前文

劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。また、劇場、音楽堂等は、個人の年齢若しくは性別又は個人を取り巻く社会的状況等にかかわらず、全ての国民が、潤いと誇りを感じることでできる心豊かな生活を実現するための場として機能しなくてはならない。(中略)

さらに現代社会においては、劇場、音楽堂等は、人々の共感と参加を得ることにより「新しい広場」として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。また、劇場、音楽堂等は、国際化が進む中では、国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する「世界への窓」にもなることが望まれる。

#### ②仙台市基本計画(中間案)

現在策定が進められている本市の新たな基本計画においては、市民が文化芸術に親しめる環境づくりを推進していくことが示されている。

#### 《8つのチャレンジプロジェクト》

##### ⑥ライフデザインプロジェクト

- ・多彩な学びや体験の機会を創出するとともに、音楽や芸術などに親しみ、創造性が育まれる環境をつくります。

#### 《施策の体系》

##### 10 学び (1) 文化芸術に親しめる環境をつくる

- ・【文化芸術拠点】新たな文化芸術の拠点づくりに向けた音楽ホールの整備検討を進めるとともに、区文化センター、青年文化センター、演劇工房10-BOX、能-BOX、文学館における活動を推進し、文化芸術を通じた多様な学びの機会の創出を図ります。
- ・【市民活動】市民が主体となった文化芸術活動の支援を行うことにより、都心部や地域など身近な場所で気軽に文化芸術に親しめる機会の創出を図ります。

## (2) 市内ホール施設の現状

### 【現状1】専門性の高い大型ホールの欠如

- ・現在市内には、2,000席規模の大型ホールで、生の音源に対する音響に優れた施設がないため、大編成のオーケストラ公演や、吹奏楽や合唱の全国大会等の開催は困難である。この規模の市内のホール施設は仙台サンプラザホール（コンサート形式で2,054席）であるが、同ホールは可変イベントホールであり、電気音響等を駆使するポップス公演に利用形態が限定されている。

### 【現状2】高い稼働率

- ・市内のホール施設は、それぞれに利用特性があり、それらが一体となって全体として本市の文化芸術活動を支えている。
- ・稼働率が高い施設が多く、特に土日の予約が取りにくいという市民や事業者からの声が多い。

### 【現状3】老朽化

- ・市内のホール施設は老朽化が進んでおり、特に都心部にあるホールの老朽化が顕著となっている。

【築年数が概ね30年以上の市内ホール施設】

施設名	開館年	築年数 (2020年時点)	備考
電力ホール	1960	60	2002年改修
東北大学萩ホール	1960	60	2008年改修
宮城県民会館	1964	56	
市民会館	1973	47	
戦災復興記念館	1981	39	
イズミティ21	1987	33	2022～2023年度改修予定
青年文化センター	1990	30	2020～2021年改修
広瀬文化センター	1991	29	
仙台サンプラザ	1991	29	

### 3 市内ホール施設の体系の整理

#### (1) 整理の考え方

本市のホール施設は、例えば、勤労者福祉施設として整備された仙台サンプラザ、地域の文化拠点施設として整備された宮城野区、若林区、太白区の各文化センターなどのように、それぞれに整備の背景や目的がある。加えて、施設の規模や性能の違い等があり、これらが相まって、それぞれの施設の固有の性格を生み出している。

しかしながら、今後、ホール施設が多様な市民ニーズに対応し、活発で質の高い文化芸術活動や地域活動に寄与するためには、それぞれのホール施設が持つ役割や性格を相互に位置づけ、それぞれの施設を通じて実現しようとする内容等を、より明確にすることが必要である。

そうした観点から、以下では2つの視点から整理を行う。一つは、主にホール施設の性質に着目し、施設が文化的・社会的に持つそれらの役割と事業形態から類型化を試みるもの、もう一つは、ホール施設のメインホールの性能に着目し、施設の技術的特性と利用形態から各施設の位置づけを試みるものである。

#### (2) これからのホールに求められる役割

文化振興の観点から市内ホール施設に求められる役割として、劇場法に示されている考え方に基づき、以下の4点を掲げる。

##### **【役割1：創造発信】優れた文化芸術の創造発信を支える場の提供**

- ・新たな文化芸術作品の創作拠点となるとともに、公演や事業などに関わる人材や、文化施設運営・経営に関わる人材の育成などを支援、推進する。
- ・市民が、創作活動によって生み出された優れた文化芸術に触れることで、感動を共有し、それが積み重なることで創造性が育まれる。

##### **【役割2：市民活動】市民の文化芸術活動を支える場の提供**

- ・創造、創作活動、成果の発表など、多様なニーズに応えていくことで、市民の活発な文化芸術活動を育む。
- ・誰もが創造や表現の歓びを知ることができる。

##### **【役割3：地域交流】地域の拠点として、様々な人が集う場の提供**

- ・地域の発展を支える拠点として、誰もが気軽に集い、憩える空間となり、多様な活動が行われる。文化芸術の力とその波及効果により、地域を活性化させる。
- ・地域社会においてコミュニティの核となることで、多層に渡って人々が文化芸術に出会い、交流する場となる。

##### **【役割4：広域交流】広域集客の拠点として、多くの来街者が訪れる場の提供**

- ・広域的な集客の拠点となることで、多くの来街者が訪れ、まちの活性化や経済波及効果をもたらす。

### (3) 施設の性質に着目した分類

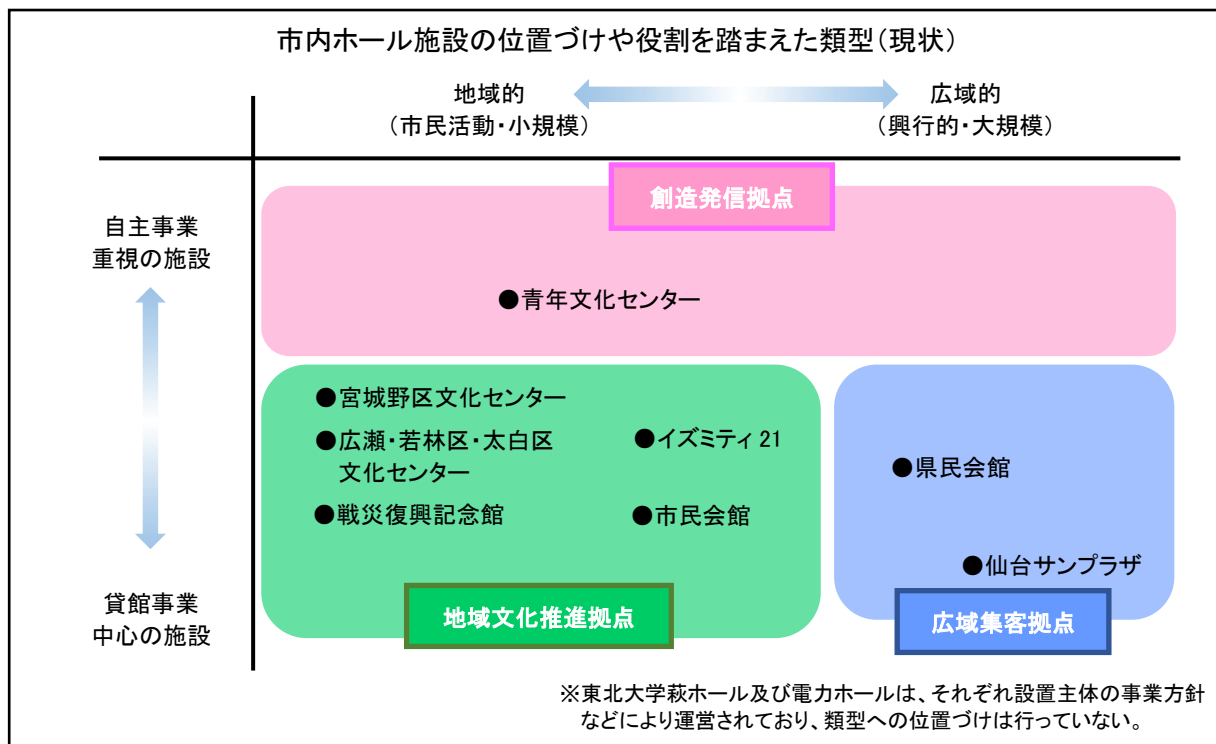
前項で掲げた4つの役割を踏まえ、ホール施設の主な性質に着目して、以下の3つのホール施設の類型を設定する。

#### ①ホール施設の類型

類 型	位置づけ等
創造発信拠点	<p>◆位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の都・楽都や演劇の都・劇都を掲げる本市の文化芸術振興の中核拠点。</li> <li>・劇場法において求められている新たな文化芸術の創造・発信に積極的に取り組むとともに、それらを担う人材を育成する。</li> </ul> <p>◆期待される役割</p> <p>【役割1：創造発信】既存の楽都や劇都事業の創造・発信に加え、新たな文化芸術作品の創作拠点となるとともに、公演や事業などに関わる人材、文化施設運営・経営に関わる人材の育成などを支援、推進する。</p> <p>【役割2：市民活動】様々な分野で市民のハイレベルな文化活動を支援する。</p> <p>【役割3：地域交流】誰もが気軽に集い、憩える空間となり、多様な活動が行われる。文化芸術の力とその波及効果により、まちを活性化させる。</p> <p>【役割4：広域交流】ホールの規模によっては、広域的な集客の拠点となることで、多くの来街者が訪れ、地域の活性化や経済波及効果をもたらす。</p>
地域文化推進拠点	<p>◆位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域文化の振興、コミュニティ活性化の拠点。</li> <li>・居住地の近隣に所在することにより、市民が身近に文化芸術に触れ、自ら活動する場となる。</li> </ul> <p>◆期待される役割</p> <p>【役割2：市民活動】地域における市民の活発な文化芸術活動を育む。</p> <p>【役割3：地域交流】地域の中で気軽に文化芸術に触れ、自ら活動する場となる。</p>
広域集客拠点	<p>◆位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外を視野に展開される大規模な文化芸術公演の開催拠点。</li> <li>・東北を代表する良質な鑑賞の場となり、東北をはじめとする市外各地からの集客に資する。</li> </ul> <p>◆期待される役割</p> <p>【役割1：創造発信】国内外を視野に入れた大規模な文化芸術公演の発信の場となる。</p> <p>【役割4：広域交流】広域的な集客の拠点となることで、多くの来街者が訪れ、地域の活性化や経済波及効果をもたらす。</p>

## ②施設の性質に着目した現状の分類

- ・前項で設定した3つの類型に、市内ホール施設を振り分ける。
- ・自主事業重視の施設であるか、貸館中心の施設であるかを縦軸とし、市民利用を中心とした比較的小規模な公演を受け入れる施設であるか、興行をはじめとする大規模な公演を受け入れる施設であるかを横軸とした表により、各施設の位置づけを表すと下図のとおりとなる。



- ・青年文化センターは、仙台国際音楽コンクールの会場であることや、文化庁の劇場・音楽堂等機能強化推進事業の採択を受け事業を実施していることなど、本市の主要な文化振興施策の拠点として活用しており、創造発信拠点に位置づけることができる。
- ・その他のホール施設については、利用形態が興行をはじめとする大規模な公演を受け入れる施設を広域集客拠点に、市民利用を中心とした比較的小規模な公演を受け入れる施設を地域文化推進拠点に位置づけることができる。地域文化推進拠点の中でも、イズミティ21と市民会館についてはホール規模が大きいことから、より広域的利用に対応可能な施設として位置づけることができる。

#### (4) メインホールの性能に着目した分類

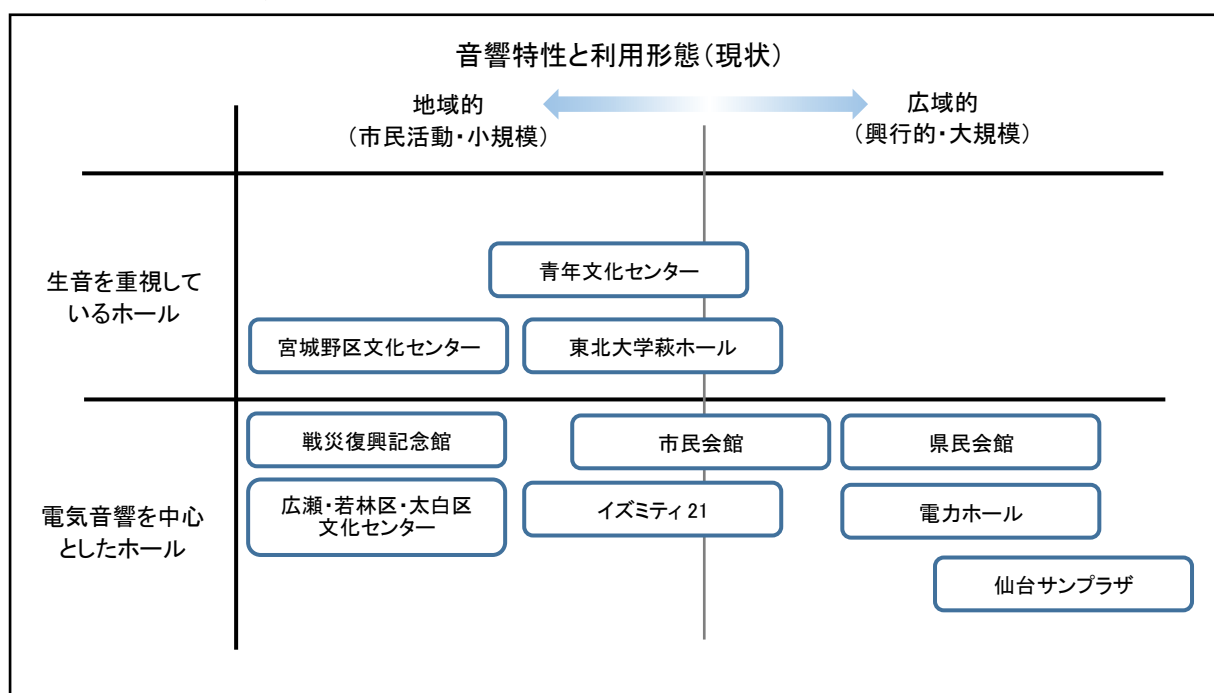
(3)において、各施設の位置づけや役割による分類を行ったが、そうした位置づけや役割を具体的に果たしていくためには、メインホールの性能面でのすみ分けについても整理する必要があることから、音響特性と利用形態に基づく分類を行う。

##### ①音響特性について

- ・ホールの利用者が施設を選択する際、クラシック音楽など生の音源によって公演を行う場合と、ポップスなど電氣的に拡声した音による公演を行う場合とでは、ホールの持つ性能が施設選択の大きな要素となる。
- ・生の音源に対する音響を重視したホールは、設計や建築の段階からそのように計画されており、ポップスなど電氣的に拡声することを前提にした残響の少ないホールとは、異なる性能のホールと言える。

##### ②メインホールの性能に着目した現状の分類

- ・上記①を踏まえ、生音を重視しているホールであるか、電気音響を中心としたホールであるかを縦軸とし、市民利用を中心とした比較的小規模な公演を受け入れる施設であるか、興行をはじめとする大規模な公演を受け入れる施設であるかを横軸とした表により、各施設の位置づけを表すと下図のとおりとなる。



- ・青年文化センターコンサートホール、宮城野区文化センターコンサートホール、東北大学萩ホールは、生の音源による音楽活動に適したホールであることから、「生音を重視しているホール」へ位置づけることができる。
- ・青年文化センターコンサートホールは、802席のホールで興行公演を行うには必ずしも十分な大きさではなく、東北大学萩ホールも基本的には大学施設であることから、現状では「広域的利用に対応可能な生音重視のホール」が不足している状態にある。
- ・戦災復興記念館、広瀬・若林区・太白区文化センター、市民会館、イズミティ21、県民会館、電力ホールは、「電気音響を中心としたホール」として、多くの用途に用いられている。仙台サンプラザは、電気音響等を駆使するポップス公演の拠点となっている。

## (5) 今後見込まれる市内ホール施設の環境変化

現在、市内では、市の音楽ホール整備や県民会館の建て替えに関する検討が進められている他、既存施設の老朽化も進んでいる。将来的な市内ホール施設の体系整理を行うにあたっては、以下の点に留意する必要がある。

### ①音楽ホールの整備

- ・本市の文化芸術振興の拠点として、また東日本大震災からの復興のシンボルとして、2,000席規模の高機能多機能ホールを中心とする音楽ホールの整備の検討を進めている。
- ・平成31年3月に取りまとめられた「仙台市音楽ホール検討懇話会報告書」によって示された、以下の機能・規模を持つホールが整備されるものと想定して整理を行う必要がある。

大ホール：2,000席規模の生の音源に対する音響を重視した高機能多機能ホール

【概要】コンサートホールに匹敵する音響性能を有するホールと、多彩な演出が可能で舞台の視認性に優れる劇場の2つの特性を併せ持ち、市民文化芸術活動の中核拠点となることを想定

小ホール：300～500席程度の多様な表現活動に対応できる多機能ホール

【概要】市民の活発な実演芸術活動を支援していくとともに、創造的な実演芸術活動を促進していくことを想定

### ②新県民会館の整備

- ・築50年以上が経過し、施設全体の老朽化が著しく、施設設備の更新に多額の費用が見込まれることに加え、駐車場確保や搬出入の困難さなどから、建て替えの方針が示された。
- ・令和2年3月に取りまとめられた「宮城県民会館整備基本構想」によって示された、以下の機能・規模を持つホールが整備されるものと想定して整理を行う必要がある。

大ホール：電子音響重視のテクノロジー進化に対応した2,000～2,300席の多目的ホール

【概要】国内外の著名なアーティストによるポピュラー音楽や大型ミュージカルをはじめとした各種公演及び大会・集会利用を想定

スタジオシアター：平土間形式で、可動客席を導入した500～800人程度収容のホール

【概要】演劇公演に適した形状を基本としながら、音楽ライブやダンスパフォーマンス、ファッションショーや各種イベントなど、あらゆる表現芸術に対応できることを想定

### ③老朽化施設の今後を見据えた整理の必要

- ・2-(2)-【現状3】に示したとおり、市有施設は老朽化が進んでいるものが多い。この内、青年文化センター及びイズミティ21については、それぞれ長寿命化を見据えた大規模改修工事を実施または予定している。
- ・市民会館（築47年）及び戦災復興記念館（築39年）についても施設の老朽化が著しく、音響設備や舞台機構などについても利用者が求める性能との乖離が生じている

が、両施設とも旧耐震基準による建物であり、残りの耐用年数が短いこと、長寿命化のための改修を行う場合、多額の費用を要すると想定されることなど、費用対効果の観点から、建物としての存続の可否については慎重な判断が必要な施設である。

- ・また、市民会館については「広瀬川の清流を守る条例」における第一種環境保全区域に位置し、高さに関する制約があるなど、他の長寿命化を行う施設とは状況が異なっている。

## (6) 音楽ホールに係る需要想定調査

前項における環境変化を踏まえながら、将来的なホール施設のあり方を検討するため、音楽ホールにどのような需要が想定されるのか、調査を行った。以下にその概要を示す。

### ①調査の前提条件

- ・音楽ホール及び新県民会館については、(5) -①及び②において想定した施設が整備されるものとして調査を行った。
- ・音楽ホール大ホールに影響を与えると見込まれる比較的規模の大きなホール施設について調査を行うこととし、このうち老朽化の進む市民会館については、音楽ホールが開館した以降は施設の更新を行わないと仮定して調査を行った。

### ②調査の考え方

- ・音楽ホールの将来の需要は、現在既に市内のホール施設で行われている催事が移行してくるものが基本となると想定し、2019年に行われた催事を一定の基準に応じて振り分けることにより、音楽ホールの需要を推計した。

### ③調査方法

#### 1) 催事データの収集・把握

音楽ホール大ホールへの需要の移行が見込まれる市内ホール施設の2019年1月から12月まで(休館期間を含む場合は他年の同期間)の催事データを収集・把握した。

#### 【 データ収集対象施設 】

1	仙台サンプラザホール	4	イズミティ21大ホール	7	多賀城市民会館
2	宮城県民会館大ホール	5	青年文化センターコンサートホール	8	岩沼市民会館
3	仙台市民会館大ホール	6	名取市文化会館		

※電力ホール、東北大学萩ホールも主要なホールであるが、それぞれ民間施設、大学施設であり、一般の公共ホールとは予約受付方法などが異なるため、今回の想定の中には含めていない。

※名取市文化会館、多賀城市民会館、岩沼市民会館については、ホール規模は1,000席程度の中規模ホールであるが、本来仙台市内で行われるような催事もこれら周辺施設で行われている実態があることから、把握を行うものである。

#### 2) ヒアリング調査

コロナ禍の影響に関するプロモーター等へのヒアリング調査を実施したところ、概ね2022年には従前どおりの公演回数に回復するとの回答を得ており、2019年の催事データによって需要想定調査を行っても、過大想定となることはないと判断された。

## 【 コロナ禍の影響に関するヒアリング調査結果（抜粋） 】

<p>■ 一般社団法人日本クラシック音楽事業協会</p> <p>(2021年の年明けから多くの公演が再開し、2021年度当初から本格再開となる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な対策の構築と実証・検証により、2021年4月からは通常公演となると考えている。</li> <li>・海外からの招聘についても、2020年11月のウィーンフィル日本公演が可能となったことを受け、2022年からは確実に実施できると考えている。</li> </ul>
<p>■ 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会</p> <p>(2021年オリンピック・パラリンピック終了後から本格再開)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリパラ閉会以降、新しく整備された施設の活用も含め、本格的再開となる。そこからはむしろ従前を超え、拡大路線を想定している。</li> </ul>
<p>■ 公益社団法人公立文化施設協会</p> <p>(2022年には2019年に相当する程度に回復)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間的に言えば、1年ぐらいで回復すると考えている。2021年にはいろいろばらつきは出るが大きな方向性として戻ってきて、2022年には2019年度程度に回復するのではないかと。</li> </ul>
<p>■ 全国的チケット流通・文化事業企画運営会社</p> <p>(2021年後半には公演数ではかなり回復するが、観客の戻りには時間がかかる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャンルや活動によって差異があるが、商業演劇などは相当に回復が早い。ポップスは、東京の大規模施設での公演が始まれば、地方ツアーも動いてくる。</li> </ul>
<p>■ 市内舞台技術・施設運営会社</p> <p>(2021年中には、様々な工夫を凝らしながら従来通りに回復する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国も緩和の方針であるので、2020年の年末にかけてかなり動き出し、2021年にはいろいろ試行をしながらも、従来同様に回復するのではないかと。</li> </ul>
<p>■ 市内公演・イベント企画制作会社</p> <p>(2021年6月ぐらいからは通常と考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年度内からかなり動きがあり、実施する公演も増えてきているが、本格的には2021年4月ぐらいから再開し、6月にはほぼ従来通りに回復すると考えている。</li> </ul>

### 3) 音楽ホール大ホールに適する催事の振り分け

音楽ホール大ホールに適する催事について一定の基準を設け、その基準に応じて催事を振り分け、音楽ホール大ホールの需要を推計した。

#### 《音楽ホールへの催事移行基準》

- ① プロフェッショナルによるオーケストラ、合唱、吹奏楽などの音楽活動で、ホールの有する優れた音響特性を生かす活動。
- ② プロフェッショナルによるオペラやバレエ、ダンスなどの総合舞台芸術で、ホールの有する優れた音響特性や舞台設備を生かす活動。
- ③ 市民によるオーケストラ、合唱、吹奏楽などの音楽活動、オペラやバレエ、ダンスなどの総合舞台芸術活動で、ホールの有する優れた音響特性や舞台設備などによって効果的な公演となると想定される一定規模以上の活動。
- ④ 学校等教育機関におけるオーケストラなどの音楽活動や、ダンスなどの総合舞台芸術による芸術鑑賞会や発表会。
- ⑤ オーケストラ、合唱、吹奏楽などの音楽活動、オペラやバレエ、ダンスなどの総合舞台芸術活動で、県域、東北地域、全国などを対象とする大会。
- ⑥ 音楽劇やミュージカルなどの実演芸術活動で、ホールの有する音響特性や舞台設備などによって効果的な公演となると想定される活動。
- ⑦ 楽都事業である、仙台フィルハーモニー管弦楽団の公演、仙台国際音楽コンクール、仙台クラシックフェスティバル、仙台ジュニアオーケストラ等の活動で、音楽ホールで行うことにより、更に効果的な成果を挙げることができると考えられる活動。

#### ④調査結果の概要

##### 【音楽ホール大ホールの利用想定日数】

利用想定	対象日数
移入元施設	
仙台サンプラザホール	8
宮城県民会館	55
市民会館大ホール	15
イズミティ21大ホール	55
青年文化センターコンサートホール（仙台フィル以外）	38
青年文化センターコンサートホール（仙台フィル）	41
名取市文化会館	9
多賀城市民会館	15
岩沼市民会館	3
小計	239
自主事業など	34
合計	273

##### 【その他ホール施設の利用想定日数】

###### 仙台サンプラザホール

他施設からの移入		他施設への移出			
移入元施設	対象日数	移出先施設	対象日数	2019年実績	
なし	0	音楽ホール大ホール	8		
合計	0	合計	8	差引	▲8
				想定日数	221

###### 新県民会館大ホール

他施設からの移入		他施設への移出			
移入元施設	対象日数	移出先施設	対象日数	2019年実績	
県民会館大ホール	181				—
市民会館大ホール	21				
合計	202	合計	0	差引	202
				想定日数	202

###### 市民会館大ホール

他施設からの移入		他施設への移出			
移入元施設	対象日数	移出先施設	対象日数	2019年実績	
なし	0	音楽ホール大ホール	15		
		新県民会館大ホール	21		
		イズミティ21大ホール	46		
		青年文化センターコンサートホール	27		
合計	0	合計	109	差引	▲109
				想定日数	0

イズミティ 21 大ホール

他施設からの移入		他施設への移出			
移入元施設	対象日数	移出先施設	対象日数	2019年実績	231
市民会館大ホール	46	音楽ホール大ホール	55		
名取市文化会館	1				
多賀城市民会館	10				
合計	57	合計	55	差引	2
				想定日数	233

青年文化センターコンサートホール

他施設からの移入		他施設への移出			
移入元施設	対象日数	移出先施設	対象日数	2019年実績	269
青年文化センターシアターホール	59	音楽ホール大ホール（仙フィル以外）	38		
市民会館大ホール	27	音楽ホール大ホール（仙フィル）	54（※）		
市民会館小ホール	7				
多賀城市民会館	4				
合計	97	合計	92	差引	5
				想定日数	274

※仙台フィルの一部の演奏会（同一プログラムで複数回実施するもの）は、より席数の多い音楽ホールに移出する際に日数が圧縮されることが想定されるため、移出先の音楽ホール大ホールでは41日を計上している

《調査結果の要点》

- ・市内各ホール施設の催事の中から、音楽ホールへの移行基準に沿う催事を選定し、これに自主事業などを加えると、270件程度あり、十分な需要が見込まれる。
- ・施設の更新を行わないと仮定した市民会館が現在担っているホール需要については、音楽ホールを始めとした市内のホール施設によって受け入れることが可能である。

(7) 今後のあり方

①音楽ホール・青年文化センター

- ・音楽ホールは、「仙台市音楽ホール検討懇話会報告書」において、音楽や舞台芸術などの実演芸術を振興し、新たな文化芸術の創造拠点となることを提言されており、これを踏まえ、創造発信拠点に位置づけることができる。
- ・3-(4)におけるメインホールの性能に着目した分類において、現状では「広域的利用に対応可能な生音重視のホール」が整備されていないが、音楽ホールのメインホールはその領域に位置づけることができる。
- ・音楽ホール小ホールは、300から500席程度の多機能ホールとして整備が予定されており、市民の活発な文化芸術活動を支える役割を担うことが想定される。
- ・青年文化センターはコンサートホール、シアターホールという専門性の高いホールを有し、市民オーケストラ等全市的な拡がりのある市民活動に利用されている。ホール座席数はコンサートホール802席、シアターホール584席であり、音楽ホールと規模の面で差別化されている。創造発信拠点においては、多様な目的、規模、性質のコンテンツを展開していく必要があり、音楽ホールと青年文化センターの2館で創造発信拠点としての役割を担うことで効果的な事業展開が可能である。

## ②各区文化センター・広瀬文化センター・イズミティ21

- ・各区文化センター、広瀬文化センター、イズミティ21は、地域文化推進拠点に位置づけられ、市民活動や地域交流の役割を担っている。居住する地域に施設が所在することで、市民が身近に文化芸術に触れることができ、自ら活動する場となることから、今後も引き続き、その機能を維持していく必要がある。

## ③市民会館

- ・市民会館は、地域文化推進拠点に位置づけられ、大ホールでは1,200名前後の観客を想定するアーティストや全国を巡回している劇団の興行公演が一定程度行われているほか、学校の校内発表会や部活動の練習などでも利用されている。
- ・しかし、音漏れ・振動漏れの影響で大・小ホールを同時に利用に供することができない制約があり十分に機能を果たせていない面がある。
- ・音楽ホール需要想定調査によれば、市民会館大ホールが担ってきたホール需要は、音楽ホール大ホールをはじめとした市内ホール施設によって受け入れることが可能であり、市民会館小ホールについても、音楽ホールに規模・機能の面で類似性がある小ホールが整備される想定である。
- ・旧耐震基準に基づく施設であり、長寿命化等に要する費用や現在地における建築上の制約（「広瀬川の清流を守る条例」に基づく高さ規制）を考慮すると、現在地での存続や建替は現実的には様々な問題がある。
- ・以上により、地域文化推進拠点として市民会館が担ってきた役割は、その相当程度が音楽ホールにおいて代替が可能と考えられることから、市民会館については、音楽ホールの開館までは現在の機能を維持した上で、それ以降の施設の更新は行わない方向で検討を進めることが望ましいと考えられる。
- ・なお、会議室等の諸室機能については、市民利用、営利利用等の現状の動向なども踏まえつつ、別途、今後のあり方を検討する必要がある。

## ④戦災復興記念館

- ・戦災復興記念館は、現在、市民会館とともに地域文化推進拠点の役割を担っており、記念ホール（270席）はピアノの発表会など小規模な市民活動等で広く利用されている。
- ・また、ホール機能のほか、本施設は仙台空襲や戦災復興事業に係る記録の保存・展示機能を有し、「戦災復興展」の定期的な開催など、本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の戦災復興の努力とその成果を記念する役割も担っている。
- ・ホール機能の観点からは、音楽ホール大ホール等の大規模施設への需要の移行は想定されないが、音楽ホール小ホールが規模・機能や役割の面（市民活動や地域交流の役割）で類似性があり、現在の利用者の受け皿となることは可能と考えられる。
- ・市民会館同様に、旧耐震基準による建物であり、長寿命化改修等の費用対効果の観点から、建物としての存続の可否については慎重な判断が必要である。
- ・以上のことから、本施設の保存・展示機能の今後や運営等について併せて検討がなされることを前提に、本施設についても、音楽ホールの開館までは現在の機能を維持しつつ、それ以降の施設の更新は行わない方向での検討を進めることが望ましいと考えられる。

- ・また、会議室等の諸室機能についても、市民利用、営利利用等の現状の動向なども踏まえつつ、別途、今後のあり方を検討する必要がある。

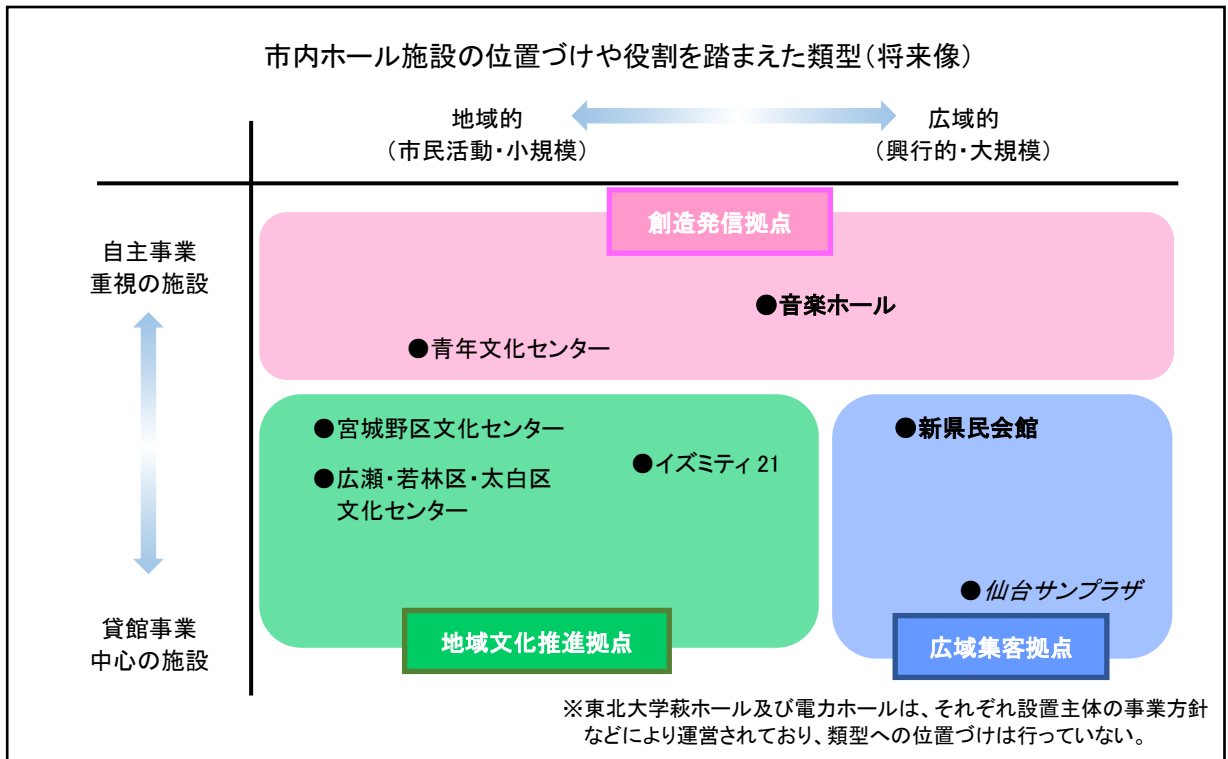
#### ⑤仙台サンプラザ

- ・仙台サンプラザは、本市と雇用促進事業団（現独立行政法人雇用・能力開発機構）が共同で建設して、ホテル棟とホール棟の2棟からなる勤労者福祉施設として平成3年5月に開設した。その後、平成16年5月に全館が本市所有に移行しているが、平成21年9月までは財団法人仙台勤労者職業福祉センターへ、それ以降は仙台サンプラザ株式会社へ施設を貸し付け、開設以来一貫して、民営施設としての運営がなされてきた。なお、全館が本市所有に移行する際に付された用途や転売禁止に関する制限は令和3年1月をもって終了となっている。
- ・この間、地元企業の展示会や学校法人の各種行事等に使用されている一方で、本市域内唯一の2000人以上の集客力を有する広域集客拠点として、主に、全国ツアー等の大型興行に利用されており、現在、県内のみならず、東北のポップス公演の主要拠点としても使用されている。
- ・一方で、電気・機械設備が2棟で共用されていることから設備の分割ができず、一体としての施設管理が前提となっていることに加え、開館から30年目を迎えて、これら設備の老朽化対策が必要な時期にきている。
- ・音楽ホールも機能上ポップス公演の受け入れは可能であるが、基本的に多くのイベントは仙台サンプラザを選択すると想定され、音楽ホール需要想定調査においては、若干の催事のみが仙台サンプラザから音楽ホールへ移行すると想定されている。
- ・公設民営の施設であり、弾力的で柔軟な運営によって今後も一定の需要が見込まれると想定されるが、当面は、施設の現状を維持しながら運営を継続し、新県民会館の整備をめぐる動きを始めとした今後の情勢の変化や需要量の変動等、様々な要素を見極めつつ、将来的な改修・維持費負担の問題などと合わせて、施設のあり方について引き続き検討が必要である。

## (8) ホール体系の将来像

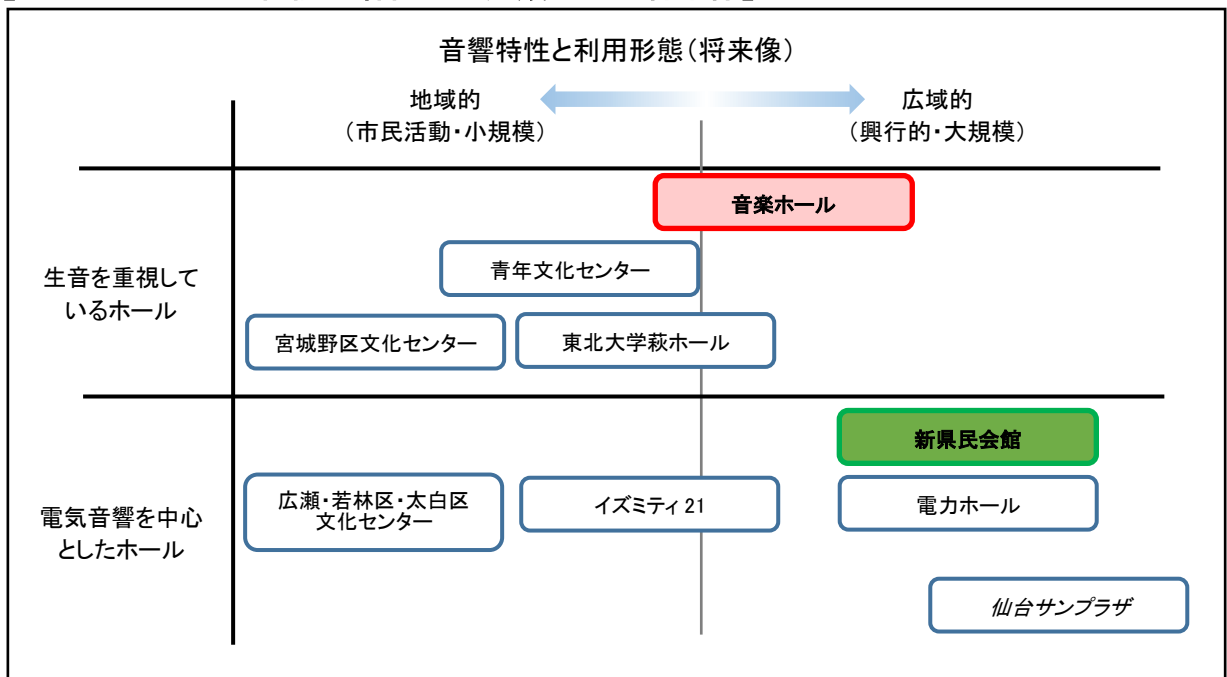
(7) を踏まえ、施設の主な性質に着目した分類及びメインホールの性能に着目した分類による将来の市内ホール体系を、下図のとおり整理する。

### 【施設の性質に着目した分類による将来像】



音楽ホールは広域的な文化芸術の創造拠点となるとともに、規模の異なる青年文化センターと連携することで、多様な目的、規模、性質のコンテンツを実施することができる。音楽ホールと青年文化センターの2館で創造発信拠点としての役割を担うことで、効果的な事業展開が可能となる。

### 【メインホールの性能に着目した分類による将来像】



音楽ホールが整備されることで、これまで青年文化センターが担っていた広域的、興行的な公演を音楽ホールで担うことができる。また、音楽ホールと新県民会館は、ホールの性能、性質の面から見ても、異なるホール施設であるということが言える。

#### 4 まとめ

今後、市の音楽ホールと新県民会館それぞれの施設について、具体的な整備検討が進められていくこととなるが、(7)で示している市内ホール施設の課題等についても併せて検討していく必要があり、状況の変化に応じて、望ましいホール体系を見直していく必要がある。

## 参 考 资 料

## 対象施設の概要

### ■トークネットホール仙台（市民会館）

#### 1. 概要

- 1,200席前後の観客を想定するアーティストの興行公演が一定程度行われているほか、全国を巡回している劇団の公演会場として定期的に利用されている。
- 学校利用の校内発表会や部活動の練習などでも多く利用されている。
- 老朽化が進んでいるとともに、大・小ホールを同時に使うことができないなどの理由から、利用率は低い。

- 1973年（昭和48年）開館 築47年
- 敷地面積：5,983 m<sup>2</sup>
- 建築面積：4,220 m<sup>2</sup>
- 延床面積：12,800 m<sup>2</sup>

#### 2. 施設構成

- 大ホール（1,265席）、小ホール（500席）、展示室（491m<sup>2</sup>：シアター形式500名）、会議室7室、特別会議室、和室2室、視聴覚室・音楽教養室・美術教養室、調理実習室等

#### 3. 主な施設

##### （1）大ホール

- 間口20m、奥行14.4m、1階席967席、2階298席の多目的ホール。楽屋の他、リハーサル室（72m<sup>2</sup>）、応接室、特別応接室などを有する。

##### （2）小ホール

- 間口12m、奥行8mの多目的ホール。舞台上の音響反射板は設置していない。

##### （3）展示室

- 展示室（491m<sup>2</sup>）としての使用の他、スクール形式300名、シアター形式500名のホールとしても利用できる。ただし、楽器演奏は禁止されている。



大ホール



小ホール



展示室

#### 4. 利用率 ※音漏れの問題から大ホールと小ホールを同時に貸していない。

施設	開館日数（日）	利用日数（日）	利用率（%）
大ホール	333	109	32.7
小ホール	333	49	14.7

※2018年8月から2019年5月まで設備改修に伴い休館していたことから、2018年1月～5月、2019年6月～12月までのデータをもとに抽出

## ■戦災復興記念館

### 1. 概要

- 本市の戦災復興の資料及び記録を総合的に展示し、市民の戦災復興への努力とその成果を記念するとともに、市民に文化活動の場を提供し、市民文化の向上に資するため設置された。
- 常設の資料展示室のほかに、270名収容の記念ホール、大小11の会議室等があり、市民の文化・自主活動の場として利用されている。

- 1981年（昭和56年）開館 築39年
- 敷地面積：2,444 m<sup>2</sup>
- 建築面積：1,781 m<sup>2</sup>
- 延床面積：6,551 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

- 記念ホール（270席）、資料展示室（400 m<sup>2</sup>）、展示ホール（185 m<sup>2</sup>）、会議室6室、研修室、和室3室

### 3. 主な施設

#### （1）記念ホール

- 客席数270席、間口9m、奥行9mの小ホールで、楽屋3室を有する。



### 4. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
記念ホール	330	233	70.6

2019年1月～12月

## ■日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）

### 1. 概要

- 1985年の国際青年年を記念して建設が計画され、「青年の新しい文化創造の場」等としての機能を持った文化施設として設置された。
- 中規模専門ホール等の多機能複合施設であるが、仙台フィルハーモニー管弦楽団の本拠地であり、仙台国際音楽コンクールの会場となるなど、楽都事業の拠点となっている。

- 1990年（平成2年）開館 築30年（2020～2021年改修）
- 敷地面積：12,042.20 m<sup>2</sup>
- 建築面積：7,089.93 m<sup>2</sup>
- 延床面積：25,064.23 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

- コンサートホール（802席）、シアターホール（584席）、交流ホール（472 m<sup>2</sup>）、エッグホール（119 m<sup>2</sup>）、パフォーマンス広場（547 m<sup>2</sup>）、スタジオ（195 m<sup>2</sup>）、練習室4室、会議室3室、研修室3室、和室3室、茶室、クッキングルーム、ミーティングルーム2室、ギャラリー（332 m<sup>2</sup>）

### 3. 主な施設

#### （1）コンサートホール

- 客席数802席、間口22m、奥行13,7mのクラシック音楽専用ホールで、プロセニウムを設けないオーpensテージ形式になっている。楽屋4室を有する。



#### （2）シアターホール

- 客席数584席、間口18m、奥行16mで、演劇や舞踊、ライブなど多彩なステージが行われる多目的ホール。楽屋6室を有する。



#### （3）交流ホール

- 472 m<sup>2</sup>の平土間で、可変ステージによってアレンジできるオリジナルスペース。椅子席のみで最大300名定員。



### 4. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
コンサートホール	326	279	85.6
シアターホール	322	221	68.6

2019年1月～12月

## ■広瀬文化センター

### 1. 概要

- 広瀬文化センター条例を設置根拠とし、宮城総合支所管内の文化センターとして位置づけられている。
- 吹奏楽や合唱、演劇、伝統芸能等の利用に特徴がある。

- 1991年（平成3年）開館 築29年
- 敷地面積：6,746.77 m<sup>2</sup>
- 建築面積：2,891.26 m<sup>2</sup>
- 延床面積：4,687.23 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

主要施設室名	面積	施設内容・主な使用例
ホール		客席：ワンスロープタイプ605席（固定席564席、可動席36席、車椅子席5席） 舞台：奥行14m、幅18m、開口幅15m、開口高8.5m、前舞台5.8m×3.7m
リハーサル室	61.60 m <sup>2</sup>	出演者等の練習室、ピアノあり
第1楽屋（洋）	22.58 m <sup>2</sup>	出演者等控室
第2楽屋（洋）	30.00 m <sup>2</sup>	出演者等控室
第3楽屋（和）	30.00 m <sup>2</sup>	出演者等控室

### 3. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
ホール	327	184	56.3

2019年1月～12月

## ■宮城野区文化センター

### 1. 概要

- 区文化センター条例を設置根拠とし、宮城野区の文化センターとして位置づけられている。
- 音楽活動や発表に適し音響特性に優れたクラシック音楽専用ホール「パトナホール（384席）」と、舞台芸術の創作・発表に適した演劇向けホール「パトナシアター（198席）」を有する。

- 2012年（平成24年）開館 築8年
- 敷地面積：12,626.18 m<sup>2</sup>
- 建築面積：5,880.59 m<sup>2</sup>
- 延床面積：13,625.89 m<sup>2</sup>（公共施設部分のみ）

### 2. 施設構成

主要施設室名	面積	収容人員	施設内容・主な使用例
コンサートホール （パトナホール）		384名	ワンスロープタイプ 舞台：奥行9m、開口幅14.5m
シアターホール （パトナシアター）		198名	平土間タイプ（多目的ホール）RBC式客席舞台：奥行7m、開口幅12m、開口高6m
リハーサル室	130 m <sup>2</sup>	50名	出演者等の練習室、ピアノあり
第1楽屋	42 m <sup>2</sup>	16名	出演者等控室
第2楽屋	24 m <sup>2</sup>	13名	出演者等控室
第3楽屋	24 m <sup>2</sup>	13名	出演者等控室
第4楽屋	23 m <sup>2</sup>	11名	出演者等控室
第5楽屋	24 m <sup>2</sup>	13名	出演者等控室
第6楽屋	22 m <sup>2</sup>	13名	出演者等控室
スタジオ	66 m <sup>2</sup>	10名	音楽練習等、ドラムセット、キーボード、アンプあり
音楽練習室1	36 m <sup>2</sup>	20名	音楽練習等
音楽練習室2	45 m <sup>2</sup>	15名	音楽練習等

### 3. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
パトナホール	304	241	79.3
パトナシアター	313	203	64.9

2019年1月～12月

## ■仙台サンプラザ

### 1. 概要

- 仙台サンプラザホールは、1階部分の可動イスを収納し、床一面をフラットに変えることで、多様なイベントに対応することが可能となっている。最大2,710席であるが、ポップスコンサートなどのため舞台を設営した場合には、2,054席が設置できる。
- 仙台のみならず、東北のポップスの拠点施設となっている。
- 搬入車は11tトラック6台まで駐車可能である。

●1991年（平成3年）開館 築29年  
 ●敷地面積：12,340㎡（全体）  
 ●延床面積：29,041㎡（全体）  
 7,909㎡（ホール部分）

### 2. 施設構成

- サンプラザホール（最大2,710席）、ホテル（客室74室）、宴会場（和室含め13会場）

### 3. 主な施設

#### （1）サンプラザホール

- 最大客席2,710席、コンサート形式2,054席、展示面積1,134㎡（343坪）
- 楽屋6室、リハーサル室（106.5㎡）、シャワー室男女各1室、主催者室などを有する。
- ホール可変形式例



■企業・学校ガイダンス



■2,700席パターン



■パーティ



■2,000席パターン



■商談会、展示会



■エプロンステージ形式

### 4. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
サンプラザホール	329	229	69.6

2019年1月～12月

## ■若林区文化センター

### 1. 概要

- 区文化センター条例を設置根拠とし、若林区の文化センターとして位置づけられている。
- 童謡フェスティバルやダンスフェスティバルなど、地域の文化活動の発表の場となっている。

- 1993年（平成5年）開館 築27年
- 敷地面積：11,842.43 m<sup>2</sup>
- 建築面積：5,129.29 m<sup>2</sup>
- 延床面積：11,446.81 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

主要施設室名	面積	収容人員	施設内容・主な使用例
ホール	ワンスロープ700名（車椅子席3名）		舞台：奥行12.5m、間口14.4m、高さ7.2m
リハーサル室	148.00m <sup>2</sup>		出演者等の練習室、ピアノあり
第1楽屋	19.65m <sup>2</sup>	3名	出演者等控室、バス・トイレ付
第2楽屋	19.65m <sup>2</sup>	3名	出演者等控室、バス・トイレ付
第3楽屋	37.21m <sup>2</sup>	14名	出演者等控室
第4楽屋	40.95m <sup>2</sup>	14名	出演者等控室
展示ホール	214.20m <sup>2</sup>	120名	展示、各種会議、講演会等
第1練習室	24.72m <sup>2</sup>		音楽練習等
第2練習室	24.33m <sup>2</sup>		音楽練習等
スタジオ	84.01m <sup>2</sup>		音楽練習等、ドラムセット、キーボード、アンプあり

### 3. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
ホール	329	163	49.5

※2019年1月～2月、8月～2020年2月まで改修に伴い休館していたことから、2018年1月～12月までのデータをもとに抽出

## ■太白区文化センター

### 1. 概要

- 区文化センター条例を設置根拠とし、太白区の文化センターとして位置づけられている。
- 4つのステージタイプに変更可な楽楽楽ホールの特徴を生かしたイベントや、地元商店街と連携した企画に特徴がある。

- 1999年（平成11年）開館 築21年
- 敷地面積：11,842.43 m<sup>2</sup>
- 建築面積：5,129.29 m<sup>2</sup>
- 延床面積：11,446.81 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

主要施設室名	面積	収容人員	施設内容・主な使用例
ホール（楽楽楽ホール）	674名		客席：移動式客席4タイプ、674席（車椅子席4席）、634席（車椅子席4席）、610席（車椅子席4席）、442席（車椅子席4席） 舞台：プロセニウム開口幅13m、プロセニウム開口高7.2m
リハーサル室	167.48 m <sup>2</sup>	50名	出演者等の練習室、ピアノあり
第1楽屋	40.86 m <sup>2</sup>	12名	出演者等控室、シャワー付
第2楽屋	33.02 m <sup>2</sup>	8名	出演者等控室、バス付
第3楽屋	32.45 m <sup>2</sup>	8名	出演者等控室、バス・トイレ付
第4楽屋	52.56 m <sup>2</sup>	19名	出演者等控室、シャワー付
展示ホール	201.20 m <sup>2</sup>	150名	展示、各種会議、講演会等
音楽練習室1	43.68 m <sup>2</sup>	25名	音楽練習等
音楽練習室2	40.51 m <sup>2</sup>	15名	音楽練習等
スタジオ	71.25 m <sup>2</sup>	10名	音楽練習等、ドラムセット、キーボード、アンプあり
ミキサー室	13.47 m <sup>2</sup>	2名	録音等

### 3. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
ホール	326	258	79.1

2019年1月～12月

## ■仙台銀行ホールイズミティ 2 1（仙台市泉文化創造センター）

### 1. 概要

- コンサートやオペラ、バレエなど幅広いジャンルの大型公演対応の大ホール、発表会やミニコンサートで密な空間を生み出す小ホール、展示会からダンスパーティ、会議まで使える展示室のほか、スタジオや練習室で構成される複合施設。
- 大ホールの規模から、都心部の興行利用の補完的役割を担うことがあるが、基本的には市民や学校の利用が多い。
- 仙台市泉文化創造センター条例を設置根拠とし、泉区の文化拠点施設として位置づけられている。

- 1987年（昭和62年）開館 築33年
- 敷地面積：11,106 m<sup>2</sup>
- 建築面積：6,802 m<sup>2</sup>
- 延床面積：12,949 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

- 大ホール（1,450席）、小ホール（403席）、展示室（333 m<sup>2</sup>）、会議室1室、和室2室、スタジオ、練習室2室、特別応接室、市民ギャラリー等

### 3. 主な施設

#### （1）大ホール

- 間口18m、奥行16m、1,450席のワンスロープタイプの多目的ホール。脇花道を有する。
- 大ホールリハーサル室(89 m<sup>2</sup>)がある。



#### （2）小ホール

- 間口12m、奥行12m、403席の小ホール。脇花道を有する。



#### （3）展示室

- 各種創作作品展の他、物産展、会議、講習会、パーティーなどの多彩な催し物が実施できる。
- パントリーがある。



### 4. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
大ホール	284	231	81.3
小ホール	315	274	87.0

2019年1月～12月

## ■東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）

### 1. 概要

- 市内最大の固定座席 1,590 席のプロセニウム型ホールである大ホールは、宮城県の文化芸術の中心として利用されている。
- 搬出入に難があるとともに、舞台設備の老朽化、観客施設の狭隘さなど課題があるが、舞台芸術全般に対応することができ、特に歌謡曲の拠点と言われるなど興行利用が多い。
- 劇団四季の長期公演が数年おきに開催されている。

●1964 年（昭和 39 年）開館 築 56 年

●敷地面積：3,628 m<sup>2</sup>

●建築面積：3,194 m<sup>2</sup>

●延床面積：12,470 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

- 大ホール（1,590 席）、展示室 2 室（通し利用可）、会議室 4 室、教義室 2 室（通し利用可）、リハーサル室、和室 3 室、ミーティングカルチャールーム等

### 3. 主な施設

#### （1）大ホール

- 音楽、演劇、舞踊など多目的に利用される 1,590 席のホール。花道を有し、オーケストラピットの設置も可能。



#### （2）展示室

- 絵画、書道作品などの展示に利用。184 m<sup>2</sup>と 193 m<sup>2</sup>の 2 室を通しても利用可能。



### 4. 利用率

施設	開館日数(日)	利用日数(日)	利用率(%)
大ホール	329	247	75.1

2019 年 1 月～12 月

## ■東北大学百周年記念会館川内萩ホール

### 1. 概要

- 老朽化していた東北大学記念講堂及び松下会館を、一体的にリニューアルした施設。基本的には大学施設であるが、地域貢献として一般に開放している。
- ホール自体は生の音源に対応した音響性能を持つように改修しているが、バックヤードや観客のための施設には課題がある。

- 1960年（昭和35年）開館 築60年（2008年改修）
- 敷地面積：57,139 m<sup>2</sup>
- 建築面積：2,644 m<sup>2</sup>
- 延床面積：5,910 m<sup>2</sup>

### 2. 施設構成

- ホール（1,235席）、控室6室、会議室3室、応接室、ファカルティクラブ（110 m<sup>2</sup>）

### 3. 主な施設

#### （1）ホール

- 1,235席のクラシック音楽専用ホールに、500インチクラスの大画面スクリーン、同時通訳設備、舞台設備等を備え、音楽コンサートや学術会議、講演会など様々な催事を開催できる。



### 4. 利用率

40.3%

※改修に伴い休館していた期間があることから、2018年1月から5月及び2019年6月から12月までのデータをもとに抽出

## ■電力ホール

### 1. 概要

- 舞踊、クラシック音楽、バレエなどさまざまな催物に対応できる舞台機構を有する、1,000席ワンフロア構造の多目的ホール。設備として能舞台も有する。
- 舞台の形式から邦楽や邦舞などの拠点となっており、メディアや興行者と連携した公演なども多い。

●1960年（昭和35年）開館 築60年（2002年改修）

### 2. 施設構成

- ホール（1,000席）、楽屋8室、主催者室、浴室、シャワー室2室

### 3. 主な施設

#### （1）ホール

- 間口19.8m、奥行12.6m、1,000席のワンスロープタイプの多目的ホール。桧舞台、豪華な緞帳、木質を生かした重厚な内装を有する。



### 4. 利用率

公表されていない。